



その意味で、二十一世紀を幸福にするには「智慧の世紀」とする以外にない。

そして知識は伝達できても、智慧は伝達できない。自分が体得するしかないのです。実

はそこに、法華経が「師弟」という全人格的關係を強調する一つの理由もあるのです。

遠藤 經典に対しても、頭脳だけでなく、全人格的関わりが絶対に必要ですね。また、

それが現実の道理と違います。

須田 戸田先生の獄中での悟達も、法華経への生命をかけた肉薄から生まれたものでし

た。

自我得仏来……速成就仏身

斉藤 このときの「仏とは生命なんだ」との悟達が、法華経を「過去の古典」から現代

に蘇生させる原点となったわけです。ここに学会の不滅の深さがあると感じられます。

名誉会長 その通りだ。次の章は、この戸田先生の悟達の意義から入っていきたい。

法華経をどう読んでいくのか——日蓮大聖人は御義口伝に仰せです。

「廿八品の文文句句の義理我が身の上の法門と聞くを如是我聞とは云うなり、其の聞物

は南無妙法蓮華経なり」(御書七九四)と。法華経二十八品の一文一句が、ことごとく妙法

は南無妙法蓮華経なり」(御書七九四)と。法華経二十八品の一文一句が、ことごとく妙法

は南無妙法蓮華経なり」(御書七九四)と。法華経二十八品の一文一句が、ことごとく妙法